事業セグメント	主な分野と製品	2015年3月期事業の概況
医療事業 	**消化器内視鏡分野** 内視鏡システム(ビデオスコープ、ビデオプロセッサー、光源装置、液晶モニタ)、内視鏡システム周辺機器(画像記録装置、自動洗浄消毒装置)　等 **外科分野** 外科用ビデオ内視鏡システム、内視鏡手術用周辺機器、電気メス　等 **処置具分野** 内視鏡による診断・治療のための各種処置具(生検鉗子、ポリープ切除用高周波スネア、把持鉗子、結石採取・破砕用バスケット、止血関連処置具等、診断用・治療用別に約1,000種類)	消化器内視鏡分野、外科分野、処置具分野の全分野で2桁成長と好調に推移しました。引き続き主力の消化器内視鏡・外科内視鏡の製品が売り上げを伸ばし、地域別では北米、欧州、アジア等の海外がドライバーとなりました。売上高は前期比13%増の5,583億円、営業利益は同11%増の1,249億円と、いずれも2期連続で過去最高を更新しました。
科学事業 	**ライフサイエンス分野** 正立顕微鏡・偏光顕微鏡／倒立顕微鏡／共焦点レーザー顕微鏡／ボックス型蛍光撮像装置／実体顕微鏡／マクロ蛍光顕微鏡／顕微鏡用カメラ／イメージングソフトウエア／バイオイメージングシステム／バーチャルスライド **産業分野** デジタルマイクロスコープ／金属顕微鏡／半導体検査顕微鏡／共焦点レーザ顕微鏡／測定顕微鏡／微小三次元測定装置／工業用ビデオスコープ／工業用ファイバースコープ／工業用硬性鏡／超音波探傷器／渦流探傷器／フェーズドアレイ探傷器／X線分析装置	ライフサイエンス分野では、生命科学の最先端研究に使用されるレーザー走査型顕微鏡の販売が貢献し、産業分野では、企業の設備投資が活発化したことで工業用ビデオスコープや超音波探傷器等の販売が好調に推移しました。売上高は前期比6%増の1,039億円、営業利益は同39%増の68億円と、構造改革により収益性が改善しました。
映像事業 	**デジタルカメラ分野** デジタル一眼カメラ(ミラーレス一眼カメラ)／コンパクトデジタルカメラ／デジタルカメラ関連製品／デジタルカメラ向けレンズユニット／光学部品 **その他分野** ICレコーダー／双眼鏡	当社が注力するミラーレス一眼は「OM-D」シリーズが欧州で販売を伸ばしたほか、交換レンズの販売も順調に進み、売上高は前期比16%の増収となりました。映像事業全体では、コンパクトカメラの販売台数を絞り込んだこと等が影響し、売上高は前期比13%減の838億円となり、将来に向けたBtoBビジネスへの投資等により営業損失は139億円となりました。
その他事業	事業ドメインへの経営資源の集中を進めるべく非事業ドメインの整理を行いました。前期にバイオロジクス事業から撤退したこと等により、売上高は前期比29%減の186億円となりましたが、営業利益は12億円と黒字化しました。	

沿革

1919年
「株式会社高千穂製作所(顕微鏡の国産化を目的)」として創立

1920年
顕微鏡「旭号」発売

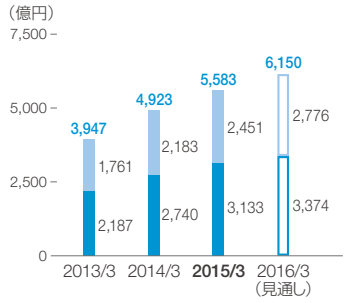
1936年
初のカメラ「セミオリンパス」発売、カメラ事業に参入

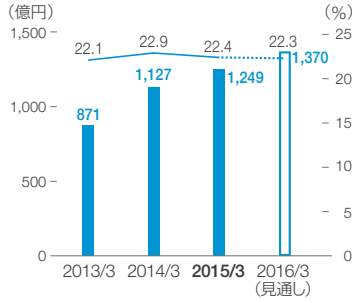
1949年
社名を「オリンパス光学工業」と改称
東京証券取引所に株式上場

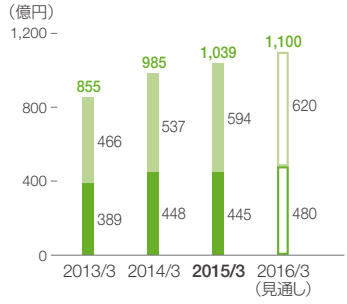
1950年
世界で初めて実用的な胃カメラを開発

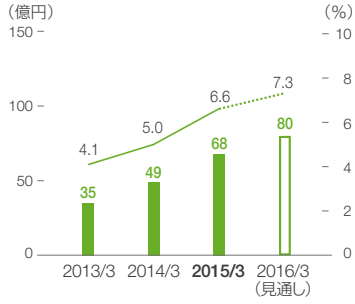
1968年
工業用内視鏡分野に参入

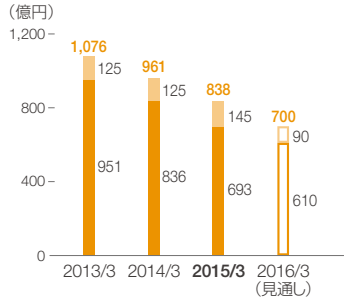
売上高	営業利益（損失）／営業利益率	売上高構成比	仕向地別売上高

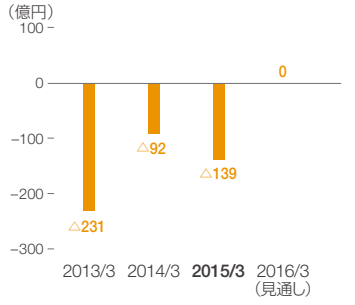


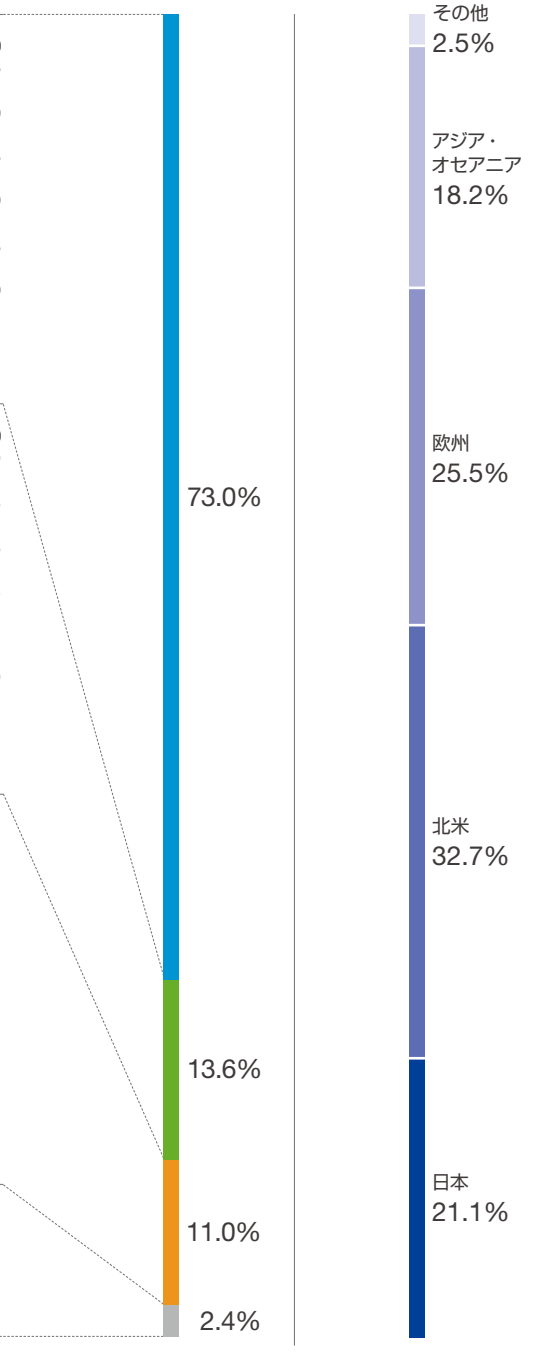












1969年

世界初のマイクロカセットレコーダーを開発

1975年

医療用硬性内視鏡分野に参入

1996年

デジタルカメラ事業に参入

2008年

英国Gyrus Group PLC社を買収、医療事業における外科分野を強化

2009年

オリンパス初のミラーレス一眼を発売（OLYMPUS PEN E-P1）